

# 「令和5年度地域課題解決支援事業」成果報告書

市町村名 知多市

事業名 機関紙講座の開催・公民館だよりの制作

---

## 1 経緯

県推進センターとの打合せのヒアリング時に「公民館だよりの制作」が決定した。

市担当者が、以前から事業が始まる前（募集チラシ）ではなく、終わった事業についてPRする媒体が欲しいと考えていたため。

## 2 趣旨・目的

### ・各活動団体宣伝媒体に対する能力向上

市では、たくさんの団体が様々な活動をしている。その中で団体募集等の宣伝する機会があると予想されるため、その宣伝媒体の技術向上を図る。

### ・公民館職員の宣伝媒体に対する能力向上

公民館だよりを作る上で、必要な技術を身につける。

### ・公民館の事業報告

講座参加者募集媒体は精力的に制作しているが、終わった後市民へ事業を報告する場がなく、公民館が何をしている組織なのか伝える機会が皆無に近いため、そういった場の創出。

### ・市民と公民館職員の交流の場

公民館職員と市民のつながりが薄いため、公民館だよりを仲介として、交流を図る。

そこから市民と職員が顔見知りになることにより、ニーズに合う事業を展開する。

### ・市民の活躍の場の提供

作品を載せることにより、市民の活躍の場を提供する。

## 3 手段

### ①機関紙講座の開催

・参加者の機関紙作成技術を向上する。

・職員が公民館だよりの制作のスキルを上げることにより、より読んでもらえる公民館だよりを制作する。

### ②公民館だよりの制作

公民館だよりを制作することにより、事業報告及び市民交流を図る媒体を作る。

## 4 概要

### ①機関紙講座の開催

機関紙制作担当している市民を対象に、効果的な紙面レイアウトの考え方、小見出しのつけ方等の講義、体験による効果的な紙面作りのグループワーク。既存機関紙やチラシの添削。

②公民館だよりの制作

定期利用団体、公民館推進委員のインタビュー、事業報告、公民館からのお知らせ等を載せる。

5 実施状況・プロセス

①機関紙講座の開催

やさしい楽しい新聞・会報作り講座を10月22日に開催。参加者8名。



②公民館だより制作

※随時 素材となる写真撮影

日にち	制作内容
10月13日	取材（活動推進委員代表）
12月1日	編集会議（公民館職員）
12月2日	取材（定期利用団体）
12月末	初稿完成
1月10日	編集会議（講師、県生涯学習推進センター職員、公民館職員）
1月24日	2稿完成
1月25日～1月31日	取材先等に校正依頼
2月4日	公民館だより完成
3月23日	活動推進委員会にて承認
3月下旬	公民館だより印刷（1000部）
3月末	配架開始

【配布先】  
各公共施設  
事業参加者  
公民館利用者  
定期利用団体

【配架先】  
ふれあいプラザ  
市ホームページ

## 6 スタッフの感想

### ①機関紙講座参加者の感想（原文まま）

- ・「見出しが大事」と教えて頂きました。今後、取り入れ、読む人の心をつかむチラシなどの作成をしたいと思います。
- ・時間をかけて教えて頂いたので次回の参考になりました。
- ・「会報だより」作成に大変参考になりました。項目と見出しの違いが理解できない部分はまだあります。
- ・見出し（タイトルやテーマを含んだキャッチコピー）の大切さを知りました。
- ・色々なご意見や作成のコツを教えて頂きました。
- ・広告チラシの作り方に役立つ講習で、参考になりました。
- ・具体的にアドバイスをいただき、参考になりました。

### ②公民館だよりの制作

今回取材を受け、協力をした。たくさんの人に読まれるといいと思っている。  
（取材先のジュニアコーラス担当者）

## 7 成果

### ①機関紙講座の開催

参加者自身が担当する機関紙について、参考になった、次回の機関紙へ反映すると言っていた。また、新たに機関紙発行を考えている参加者もあり、その参加者は講座を基に制作を開始すると言っていた。

### ②公民館だよりの制作

- ・公民館だよりを完成させることができた。今後、配架・アップロードすることにより、市民に公民館の事業や利用者の活動の魅力等を伝えることができると考えている。
- ・紙面作りを複数の職員で実施したことにより、担当者のアイデアやセンスだけではなく、他の職員のアイデアやセンスを反映させることができた。

## 8 課題

- ・R6、R7と続けていく中で、市民とつながりが薄いため、なかなか市民の協力を得るのが難しい。
- ・公民館だよりの知名度がないこと。

## 9 今後の展望

現段階では職員が公民館だよりの記事を書いているが、今後公民館だよりの存在を定着化させ、利用者をはじめとする市民に声をかけ続けることにより、記事を市民に書いてもらいたい。市民と職員が顔見知りになることにより、よりニーズに合う事業を展開したい。

また、公民館講座やイベント等で積極的に配布、公民館内に掲示等して、公民館だよりの知名度をあげていきたい。

## 10 職員としての取り組んだことによる学び・気づき

- ・今まで漠然とチラシを作って終わりとしていたが、小見出しが必要であることを学んだ。効果的なレイアウトについても学んだ。
- ・クイズやパズルも取り入れて情報を一方的に伝えない努力というものが大切だと学んだ。公務員の仕事は通知を作成して、一方的に情報を送ることが定型化しているため、とても驚いた。
- ・参加者の方が様々な活動をしていることを知った。市で活動する団体の活動を知ることができた。
- ・公民館だよりを制作する、と決めたことにより、市民に声かけをする機会が増えた。パソコンに向かっていただけでは分からないことを知ったり、市民がいきいき活動する場を見ることができたり、市民と顔見知りになることができた。
- ・事業を考える上で、職員だけで考えるとマンネリ化したり、考えが固くなったりするため、市民から話を聞くことにより、講座や事業を考える上で、ヒントになった。
- ・実際に制作していく中で、Wordのスキルが足りないと感じた。慣れもあると思うので、試行錯誤しながらスキルをつけていきたい。
- ・編集会議や校正を依頼していく中で、よりよいレイアウト、デザイン、文章表現を考えるようになった。